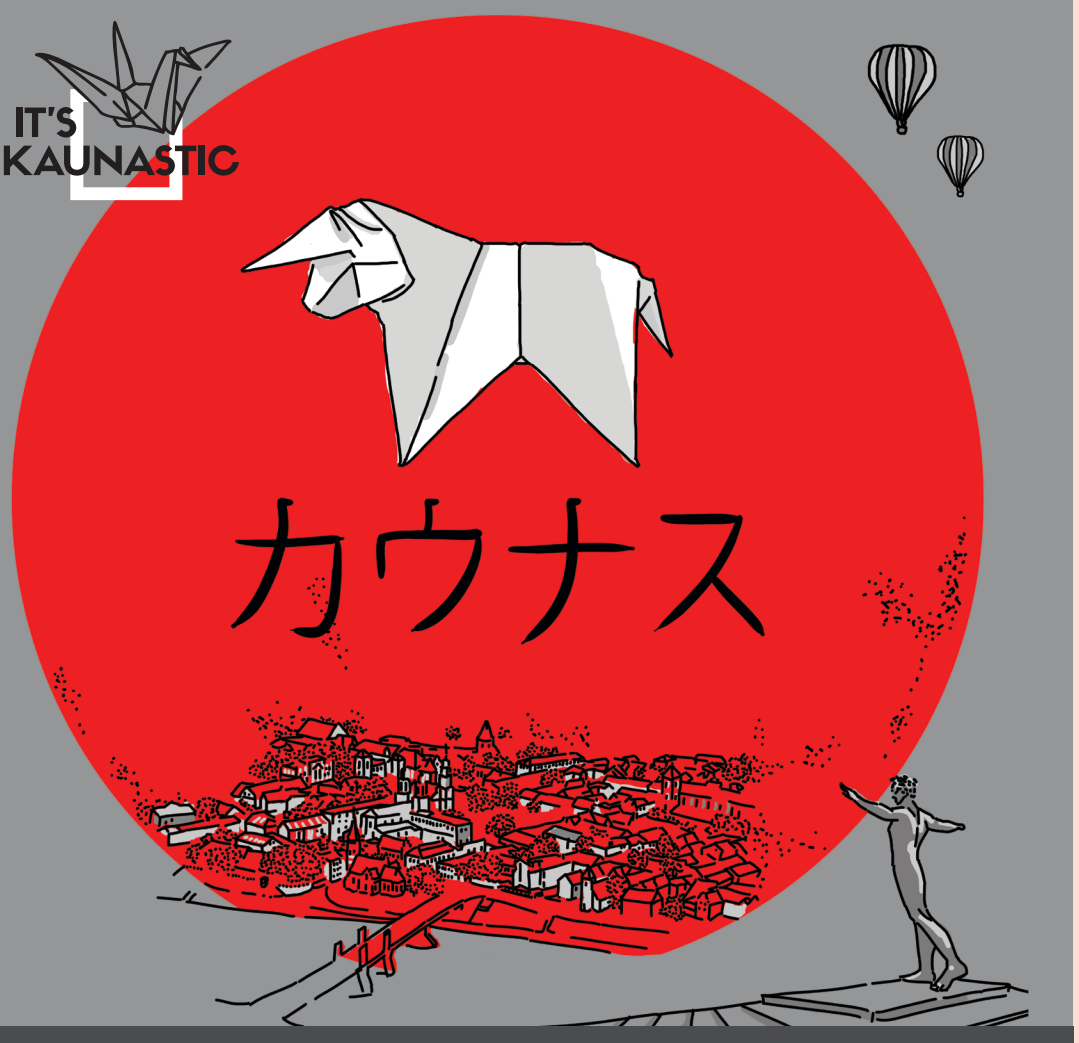
IT'S KAUNASTIC



カウナス

カウナスの沿革

歴史上でカウナスが最初に言及されたのは1361年、そのすぐ後にマクデブルク法で都市として認められました。1441年には、ハンザ同盟として知られる自由都市の商業と防衛の同盟に参加しました。その後リトアニア大公国はポーランドと共に一つの共和国に、そして18世紀後半にはロシア帝国の一部となりました。(ちなみにリトアニア語はロシア語のようなスラブ語派とは全く違うバルト語派というグループに属していて、ロシア語とは全然似ていません。)リトアニアの独立宣言は1918年に調印され、その2年後、ポーランドに占領された首都ヴィリニュスに代わってカウナスが首都になりました。第二次世界大戦の混乱の中、杉原千畝がカウナスで数千人の命を救うためにビザを書いていた頃、リトアニアはソ連に、ナチスに、再びソ連にかわるがわる占領され続け、1990年にようやく独立を回復しました。それは、ソビエト連邦の脆弱な構造に入った最初の亀裂でもありました。

リトアニアと日本「一目惚れ」

工学者のステポナス・カイリースは1918年のリトアニア独立運動に署名した活動家のひとりでした。彼は日本へ行ったことはありませんでしたが、1906年に日本についてリトアニア語で書かれた初めての本「日本の憲法」と「日本の今昔」を出版しました。カイリースは1940年にリトアニア解放最高委員会の委員長となりますが、すぐに亡命を余儀なくされました。委員会もドイツ、そしてアメリカへと場所を移し、カイリースはそこで偽名を使って暮らしました。死後、彼の遺体はカウナスへと戻され、埋葬されました。スタシース・ジルグリスによってデザインされたカイリースの像は、カウナス浄水場(オウクシュタイティア通り43番ーAukštaičių g. 43)の入り口で見ることができます。また、ドネライティス通り77番(K. Donelaičio g. 77)にある彼の家とフレダにある彼のサマーハウスには記念プレートが設置されています。2011年に日本で出版された「坂の上のヤポーニア」(平野久美子著)はカイリースの日本に対する強い思いについて書かれた一冊です。

杉原千畝ルート

1 杉原記念館
Vaižganto g. 30

第二次世界大戦が起こった頃、日本総領事だった杉原千畝は大勢のユダヤ人の命を救うために何千枚ものビザを書きました。彼が過ごした領事館の建物(杉原ハウス)は2000年から小さな博物館として開かれ、日本人観光客だけでなく、多くの人が訪れる場所となっています。2008年には日本政府の援助を受け改築されました。また、ここは"命の外交官"杉原千畝基金の拠点でもあります。ユダヤ人を救うため「命のビザ」に署名をしたオランダ領事ヤン・ツバルテンディクの功績を称えた特別な展示も見ることができます。

2 ホテル メトロポリス
S. Daukanto g. 21

第二次大戦が始まってからしばらくして、日本領事館が閉鎖され、杉原千畝は当時人気だったのこのホテルで暮らし始めます。ここに滞在している間もホロコーストから逃れようとする人々のために、杉原はビザを書き続けました。2015年にはホテルの正面に杉原の記念プレートが設置されました。

3 カウナス鉄道駅
M. K. Čiurlionio g. 16

杉原千畝の記念プレートが飾られている現在の駅舎は第二次世界大戦の後に建てられたもので、以前の駅舎は戦時中に取り壊されてしまいました。それでも、日本からの命令で杉原がリトアニアを去ったのは確かにこの場所でした。彼は列車が駅を離れてゆくまさにその最後の瞬間まで、迫害から逃れようとする人々のためにビザを書き続けました。

4 杉原講堂とツバルテンディク講堂
Gedimino g. 44

ヴィタウタスマグヌス大学の政治学部にある杉原講堂は2008年に公開されました。このホールは日本からのゲストがアジア研究に関する講義やセミナーを行う際に使われています。講堂の隣にはオランダ人のヤン・ズヴァルテンディクの名前があります。彼もまた、杉原と共に何千もの命をホロコーストから救った外交官です。

5 カウナスピクチャーギャラリー
K. Donelaičio g. 16

前衛芸術のFLUXUS(フルクサス)運動の創始者であるユルギス(ジョージ)・マチュナスはカウナスで生まれました。彼が幼少期に暮らした家の近くにあるこのギャラリーでは、日本人アーティストの靆嘔(あいおう)の作品「ブラックホール」を見ることができます。また、ここはTakao Satoの「Mano Mano Theatre」のホームでもあり、多くのリトアニアとアジアの隠れた芸術作品と出会えることでしょう。FLUXUS展示室を観るだけでも訪れる価値は十分にあります。

6 オランダ領事館
Laisvės al. 42

記念プレートが設置されているのは1928年までオランダ領事館として使われていた建物。しかし重要なのは、ヤン・ツバルテンディクが1940年にホロコーストから逃れようとする何千ものユダヤ人たちを救った場所が、ライスベス通り29番にある別の建物だったということです。ツバルテンディクの記念碑はしばらくの間カウナスで大変話題となりました。この地図にもまもなく加えられることでしょう。

7 ロムヴァ映画館
Laisvės al. 54

ソ連による占領の直後に建てられたリトアニアに現存する一番古い映画館のひとつで、アートシアター系や古典作品を中心に上映しています。約500席のこの大きな劇場は、時にはコンサートやコスプレショーの会場としても使われています。2015年10月にはチェリン・グラック監督の映画「杉原千畝」のワールドプレミアがこのロムヴァ映画館で行われました。

8 ネムナス島
ジョギングや犬の散歩に人気のこの島はかつてカルメリーテス島と呼ばれ1970年以前は不凍港として使われていました。現在、島にはジャルギリスアリーナや建設中の科学センターがあります。また、日本とリトアニアの友好の象徴として2003年に植えられた桜が、ひっそりと美しく咲いています。

9 悪魔の博物館
V. Putvinskio g. 64

面白半分で集め始めた個人のコレクションが、今では世界で唯一の悪魔博物館になりました。3000点以上の展示物の多くは、博物館の創立者であるアンタナス・ジミュジナビチュスの死後、博物館に感銘を受けた世界中の人々から送られ、コレクションに加えられたものです。キューバ、韓国、ウクライナなど世界の悪魔たちと共に日本の悪魔(鬼)も展示されています。

10 国立チュルリョーニス美術館
V. Putvinskio g. 55

この美術館は大がかりな改装工事を経て2016年末に完全に再開される予定です。広大なホールには20世紀初頭の世界的なリトアニア人画家及び作曲家、ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニスの作品が数多く展示されています。70年代に日本で人気となったヨナス・メカスのFLUXUS(フルクサス)映画のサウンドトラックで彼の名前や音楽に聞き覚えのある人もいるでしょう。館内の特別ホールではチュルリョーニスの音楽を聞くこともできます。運が良ければコンサートが見られるかもしれません。

11 旧大統領官邸
Vilniaus g. 33

19世紀の中頃、最初の邸宅として建設されました。ヴィリニュスがポーランドに占領され、カウナスが一時的に首都になった際、この家は初代大統領の住居兼事務所となりました。ソビエトによる占領が迫った1940年6月14日の夜から15日かけて、ここでリトアニア政府最後の会議開かれました。
現在はリトアニア独立の歴史を紹介するための博物館として利用されており、簡潔かつ詳しく独立について知ることができます。

12 AURAダンスシアター
M. Daukšos g. 30

AURAダンスシアターは25年以上もの間、地域におけるコンテンポラリー・ダンスの中枢を担ってきました。AURA国際ダンスフェスティバルは、芸術ファンの間では秋の風物詩ともなっています。またAURAのダンサーたちは様々な学際的プロジェクトに参加することで知られています。去年は杉原ハウスのそばで桜のためのダンスを披露しました。

13 アレクソトス観測地
Amerikos lietuvių g.

2011年に日本が地震と津波の被害に遭った際、アレクソタス・ユルギス・ドブケビチュス学校の生徒たちは日本の子どもたちへの贈り物を作り始めました。支援のシンボルとして学校の近くに植えられた松の木は、地域の人々の手によって現在まで大切に育てられています。松の木からはアレクソタスのパノラマが広がり、近くにはレトロなケーブルカーもあります。撮り逃さないように、カメラの充電をお忘れなく。

14 第9要塞
Žemaičių pl. 73

シレイニエイ地区の北部の薄暗い場所は、ロシア帝国が都市を囲むように作らせた要塞の一部です。要塞は完全な状態ではありませんでしたが、様々な目的で使用されてきました。最初のソビエト占領下では刑務所や中継地がここに建設されました。ナチスが占領していた時代はユダヤ人や他の囚人がここで処刑されました。そのため現在はホロコースト記念碑と博物館になっています。その中には杉原千畝についての展示室も作られています。

15 アジア研究センター
V. Putvinskio g. 23

アジア文化の研究機関としてはリトアニアで最も古いアジア研究センター。その歴史は小島亮博士が日本人、そしてアジア人として初めてヴィタウタスマグヌス大学で教鞭を取った、1993年にまで遡ります。現在のアジア研究センターは2000年に設立され、大学研究を含む様々な日本関連の行事の中枢を担ってきました。また、アジア研究センターは初のリトアニア語・日本語の辞書も編纂、バルト地域に関する豊富な蔵書を有し、提携を結ぶ日本の大学の数は16校にも及びます。現在、アジア研究センターは東アジア地域(日本、韓国、中国)の研究に力を入れており、将来的には西アジア、中央アジア、南アジアそして東南アジアへと領域を広げていく計画です。
さらに、日本文化サークル「橋」、韓国文化サークル「Hallyu」、中国文化サークル「Wu Wei」という三つの団体の活動拠点でもあります。誰でも参加可能なオープンイベントを開催するなど、各サークルの活動は非常に盛んです。

16 リネン製品の店『ヨークスナメイ』
A. Juozapavičiaus pr. 21

シャンチャイ地区のタンク工場跡地にあるこの店には、高品質なオリジナルデザインのリネン製品がそろっています。製品の多くは日本人に向けて作られているそうです。最初の社名は「Kimono」、設立から長きにわたって日本との関わりをもってきました。杉原千畝のスタンプ入りリネングッズを買うこともできます!

17 ステポナス・カイリース記念碑
リトアニアで初めて日本についての本を出版したステポナス・カイリースについては、冒頭で紹介した通り。彼の記念碑はカウナス浄水場の正面に建てられていますが、それはカイリースが1920年代に給水システムを作る際の責任者だったことに由来します。

杉原千畝ルート

この地図で日本の外交官・杉原千畝に所縁のあるものがたくさん見つけられるはずです。カウナスの人々は今でも彼に感謝し、その功績を誇りに思っています。カウナスの杉原千畝ルートを巡りながら日本とリトアニアとのつながりを感じて頂ければ幸いです。ここからはカウナスを楽しむためのヒントをご紹介します。

食事

「リトアニア料理」には色々な解釈がありその数はどんどん増えています。カウナスではその全てが揃っているので、予算に合わせて、豊富な数のレストランやカフェの中からピッタリのものを選ぶことができます。屋台やスタンドも増えており、伝統的なトルコのケバブから最新のアメリカンファストフードまで、色んな食事を楽しめることでしょう。おすすめの場所は地図にも印をつけてありますのでチェックしてみてください。

緊急時(警察・救急・消防)

90年代のカウナスは少し荒れていましたが、現在はとても安全なヨーロッパの街のひとつになりました。他の街を旅する時と同じように気をつけていれば大丈夫。もしもの時、警察・救急・消防への連絡は112番です。

お役立ちリンク集

www.kaunastic.lt
www.facebook.com/kaunastic
www.kaunas2022.lt
@visit_kaunas #kaunastic #visitkaunas

KAUNAS TOURIST INFORMATION
KAUNAS TOURISM INFORMATION CENTRE AND CONVENTION BUREAU
Laisvės al. 36 | +370 37 323 436
info@kaunastic.lt | visit.kaunas.lt

交通機関

カウナスにはバス、トロリーバス、そしてケーブルカーがあります!さらに街で噂のミニバス、通称"微生物"は通常のバス料金に少しプラスするだけで便利に移動できます。最近ミニバスの本数は少なくなっていますが、観光にはバスやトロリーバスだけでも十分でしょう。ちなみに街のほとんどのメインスポットには歩いて行けます。

通貨

2015年1月からリトアニアはユーロゾーンに加盟しました。街中にATMがあり、そのほとんどが24時間365日いつでも使えます。両替は銀行、またはキオスクでできます。

自転車

コペンハーゲンやアムステルダムには及ばないものの、カウナスの自転車カルチャーは徐々に大きくなりつつあります。クリティカル・マス(自転車に優しい街づくりの運動)イベントも毎月開催されています。街の中心部の道路には自転車用のレーンが作られ、そのレーンは緑豊かなカウナス郊外へとつながっています。自転車シェアリングやカーシェアリングのシステムは2016年の5月から導入されました。詳しい情報はこちらのwebサイト(www.citybee.lt)かCityBeeのアプリでご覧いただけます。

大戦期のモダニズム建築:アプリ配信中!

リトアニアには他では見られない独自の建築遺産を誇る二つの街があります。ヴィリニュスにはバロック建築、そしてカウナスには1919年から1940年に盛んだったモダニズム建築。中でも、最盛期の優れた建築物は2015年に欧州委員会が選ぶ「欧州遺産レーベル(European Heritage Label)」を受賞し、2016年にはカウナスがユネスコ・デザイン都市にノミネートされました。
もちろん歩いて見て回るのがベストな方法でしょう。そんな時にピッタリの案内役があなたのスマートフォンの中にいます。アプリ『Kaunas of 1919-1940』はカウナスにある44のモダニズム建築を紹介。さらに街の中心部やジャリャカルニス、グリチュピス、アレクソタス、シャンチャイ地区を含む様々なルートを案内してくれます。

こんにちは!

カウナスへようこそ。あなたを迎えられて本当にカウナスティック(カウナス+ファンタスティック)です。カウナスティックなんて言葉知らない?最後にはきっとこの言葉が好きになっているはずです。

見どころ

⑳ ポストギャラリー
Laisvės al. 51A

数年前ライベス通りの中庭にオープンし、現在のコンテンポラリーアートに不可欠な場所であるこのギャラリー。展覧会やパフォーマンスなど常に楽しいイベントが行われています。

㉑ カウナス写真ギャラリー
Vilniaus g. 2

ポストギャラリーと共に、コンテンポラリーアートの主要なギャラリーとしてカウナスに作られました。懐古的アートから革新的なものまで、頻繁に変わるテーマを楽しめます。

㉒ ケーブルカー
Amerikos Lietuvių g. 6, or Aušros g. 6

フニクリ～フニクラ～!1930年代、町が急速に発展し始めた頃ケーブルカーは丘が多いカウナスにおいて非常に便利な乗り物でした。二つのケーブルカー、「ジャリャカルニス」と「アレソタス」は現在も運行中。少しの料金で写真のように美しい景色を一望できます。

㉓ キリスト復活教会
Žemaičių g. 31A

ラトビア人のカロリス・レイソナスが設計したバルト地域最大の大聖堂にはとても長い歴史があります。人々が資金を募り1930年代に始まった建設がようやく終わったのは、リトアニアが再び独立を勝ち取った後のこと。ソ連時代にはラジオの部品工場として使われていました。ここのテラスには訪れる価値ありです!

㉔ 旧市庁舎
Rotušės a. 15

「白鳥」の愛称で親しまれる後期のバロック建築。以前は市長の家など様々な用途に利用されていましたが、現在はカウナス市の博物館として、訪れた人にカウナスのすべてをわかりやすく紹介しています。また、たくさんのカップルがここで式を挙げ、毎年、冬には特別なクリスマスツリーが現れます。

㉕ 航空博物館
Veiverių g. 132

1933年に大西洋上空を飛び、悲劇の死を遂げた二人のパイロットS.ダリュスとS.ギレナスの名前がついた飛行場内にこの博物館はあります。ソ連に囚われたリトアニアの航空の歴史を深い洞察を持って紹介。外には大きな現物の展示もあります。

㉖ ヴィタウタスマグヌス大学植物園
Ž. E. Žilibero g. 6

およそ100年前にヴィタウタスマグヌス大学に誕生したこの植物園では8851種もの植物たちと出会えます。絵画のように美しい池や建物は元々17世紀に貴族が所有していたものです。

㉗ ヴィタウタス公園
はしゃぐ子どもたちの姿が浮かんでくるようなこの公園は現在もおもしろそうな遊具がたくさん残っていますが、使うには調整が必要とのこと。

㉘ チェチェン広場
チェチェン族と団結した記録として名付けられた広場は現在エクストリームスポーツを楽しむ人々に人気です。カウナス・フォトフェスティバルの撮影にも使われています。

㉙ ペレドスの丘(フクロウの丘)
美術学校内のロマンティックな場所に設置されたフクロウの彫像は著名なリトアニア人彫刻家ピンカス・グリバスの作品。人々が丘の上に魅力を感じるのは、もしかしたら忘れられつつあるこのカウナスのシンボルのせいかもしれません。

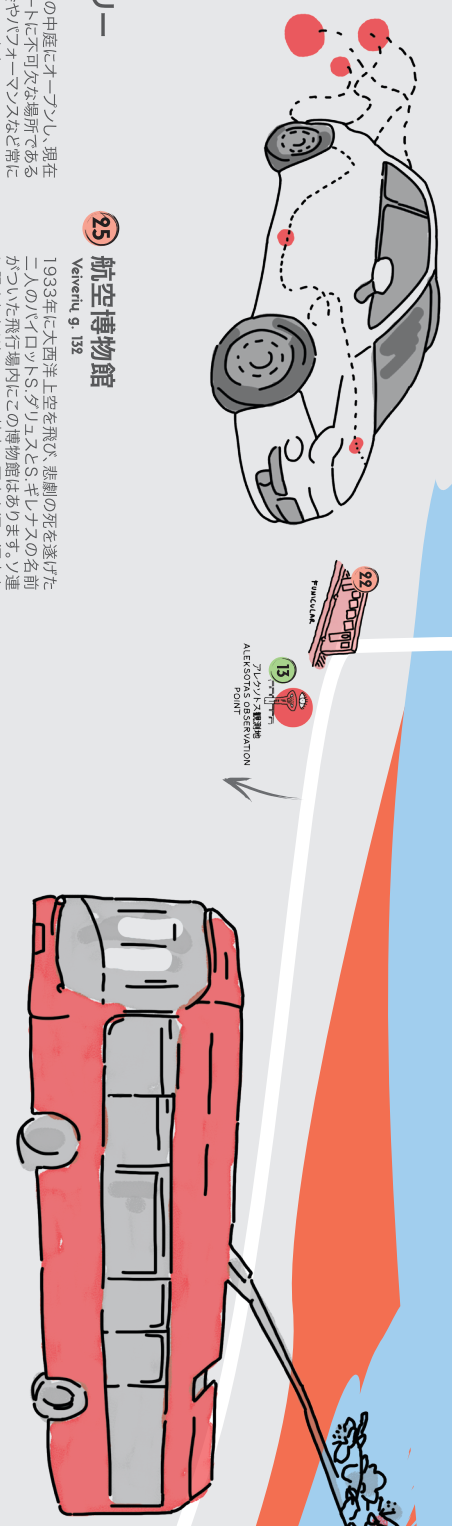
エンターテインメント

⑱ カウナス国立ドラマ劇場
Laisvės al. 71

リトアニア最古の劇場の一つであり最も近代的な劇場。初演は事前に完売してしまうのが当たり前。近くの人形劇場とミュージカル劇場のイベントや外観もチェックしてみてください。演劇を見るなら、カウナス商工劇場かカウナス小劇場という選択肢もあります。

⑲ カウナス国立フィルハーモニーホール
L. Sapiegos g. 5

1920～30年代に最も多忙な建築家であり法務大臣であったエドムンダス・フリーカスが設計し、リトアニアが独立を失った後に音楽ホールとなりました。カウナス市交響楽団とカウナス市合唱団の本拠地で毎週コンサートが行われています。当日券あり。



グルメガイド

㉚ メジョトユ ウジェイガ
Rotušės a. 10

評判を聞かずとも「50年以上続く店」というだけでその味は十分想像できるでしょう。「羊飼いの宿」という名のこのレストランもその一つ。店名通りのメニューですが、ベジタリアンの方も安心して召し上がれます。旧市庁舎に面した店の場所もまた、人気の理由です。

㉛ ビシュタポーデ
S. Daukanto g. 23

北欧風か、それともリトアニア風か、このレストランでは早朝メニューや北欧風にアレンジした地元料理を提供しています。小さいけれど手間ひまかけて作っています。

㉜ スプルギネ
Laisvės al. 84

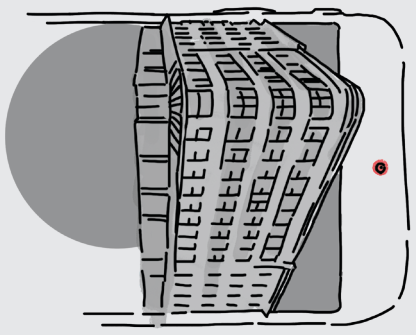
60年代にオープンした安くておいしい「これぞドーナツ屋さん!」的お店。店内では独立前のカウナスの雰囲気が垣間見えます。

㉝ 55
Laisvės al. 79

この辺りでは唯一、公式に認造酒と同じレシピのお酒が飲めるレストラン。中には小さい醸造酒ミュージアムも。ホテルのレストランなので朝の7時から朝食をお楽しみ頂けます。

㉞ ウオクサス
Maironio g. 28

店名の意味は「キツツキが住む木の穴」。リトアニア料理の在り方をユニークな視点で模索するレストランです。現代的でありつつも常に「リトアニア料理ならこの場面で何を提供すべきか」を大事にしています。



㉟ クルトゥーラカフェ
K. Donelaičio g. 16

名前は「文化」を意味し、バーの中はコンセプトにあてはまるものがすべて表れています。カフェ自体はカウナスピクチャーギャラリーの中にあり、ドネライティス通りが見渡せるステキなテラス席もあります。独特な内装は今あなたがどの時代に生きているのかを忘れさせてしまうかも。週末にはギャラリークローにDJがいます。

㊱ モンテ・パッツィス
T. Masiulio g. 31

リトアニア最大の修道院で成熟したバロック建築の一つ、パジャイスリス。現在は高級ホテルとレストランとして利用されています。食事をしなくてもその景観と近くのビーチを訪れるだけで十分に楽しめます。

買い物

㊲ キトキア・グラフィカ
Kardiliaus Mindaugo pr. 68

リトアニア唯一のリソグラフの印刷所。コミックショップも併設されていて、まったり漫画について語り合えるフレンドリーなお店です。

㊳ ミニストリーオブブック
Laisvės al. 29

2016年にオープンした新しい書店。ミニストリーオブブックこの場所には非常に重要な意味があります。実は、この建物にそ、1940年にオランダ領事ヤン・ツバルテンディクがユダヤ人たちを国外に逃がすための命のビザに署名を始めた場所なのです。

㊴ ミニマルミューズ・ブティック
Vilnius g. 23

リトアニアデザインに興味がある人にはおそらく最高のブティックでしょう。ドレスからバッグに至るまでオーナーが強いこだわりを持って選んだ品々が並ぶ、名前通りのお店です。

㊵ ウルマス・ショッピングタウン
Pramonės pr. 16

ウルマスはリトアニアが資本主義を採用し、誰もが商売人になった90年代の遺物です。現在、町はずっかり近代的で、60mもの巨大な壁画がありま す。毎週日曜日には蚤の市も開かれています。

㊶ アレクソタス市場
Aleksotas

蚤の市で知られるアレクソタス市場はS.ダリュス・S.ギレナス飛行場のすぐ隣。古いタイヤにシェラック製のレコード、蓄音機、ヴィンテージソファにビースティ・ボーイズのカセット…なかなか帰れないかも!

㊷ イエシア・ショップ
Europos pr. 114

カウナスはリトアニア陶器発祥の地です。(残念なから陶器博物館は現在引っ越し準備中。)純粋なカウナスの物をお土産にしたいとお考えなら、この店の製作所に足を運んでみてください。